

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶらうらんどkouminkanたの 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年1月13日		2026年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	2025年12月1日		2025年12月26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	対象児が児発を利用していることから、個々の強みや苦手な所がわかり、集団生活での園への情報提供や具体的な方法を伝えることができる。	集団生活場面や日常生活場面を想定して、療育を行っているため、園生活に汎化しやすい。また、定期的な訪問で共有することができ、身辺自立等は共有しやすく自立につながるが早い。個々の理解については、意識的に伝えている。	園との簡単な共有は送迎時や電話連絡などで行い、生活場面の共有などは、定期的な共有の場を作って連携を図っていく。また、タイムリーに情報共有ができるように関係を築いていく。
2	保護者様との連携が取りやすいため、利用児の困りごとや保護者様の子育てに関する相談事などが入りやすい。その為、家庭での困り事にも対処しやすい。	ご家庭からの相談事やその際の対応など、定期的な訪問で共有することをしている。	園との簡単な共有は送迎時や電話連絡などで行い、生活場面の共有などは、定期的な共有の場を作って連携を図っていく。また、タイムリーに情報共有ができるように関係を築いていく
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用回数が限られているため、利用児の現時点の置かれている環境や状況などのタイムリーな情報などは、保護者様から連絡がない限りはなかなか入ってこない。(一部)	生活環境の一部になっていない可能性は考えられる。保護者様が頼れる存在にはまだなっていないケースもあるのではないかとと思われる。	利用児の保護者様との関係を築くことと、必要なケースについては、関係機関がタイムリーに連携を図るための会議等で役割や伝達網を確認しておく。
2	事業所でできることと、園でできることの違いを理解していないと、訪問事業での振り返りの際に上手く伝わらない。	園と事業所の人員環境等がそもそも違う。	園生活を想定して療育を行い、できることから取り組んでもらえるように伝達する。
3			